令和７年度　東京都内湾水生生物調査　11月成魚調査　速報

●実施状況

令和７年11月18日に成魚調査を実施した。天気は曇りで時折小雨の天候であった。気温は 14.4～16.0℃であった。調査地点の風は概ね北東からの風で、風速は 1.5～4.5m/s であった。調査当日は大潮で、干潮は9時39分、満潮は15時18分であった（気象庁のデータ）。当日の水色は概ね暗緑色で透明度は1.5m以上であったことから赤潮ではなかった。種別では、テンジクダイが3地点、アカエイが2地点で確認された。魚以外では、シャコが3地点で確認された。

項目　/　地点名	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時間	10:04-10:50		11:05-12:00		12:20～12:51		12:55-13:40	
水深(m)	24.8		12.3		14.4		9.7	
天候	曇り		曇り		曇り		曇り	
気温(℃)	14.5		14.4		14.4		16.0	
風向/風速(m/sec)	NE/3.6		NE/4.5		NNE/4.3		NE/1.5	
波浪(m)	0.5		0.5		0.5		0.3	
透明度(m)	2.8		3.3		3.5		3.2	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(℃)	16.1	17.6	16.0	16.7	16.2	17.2	16.1	16.5
塩分(－)	31.2	33.5	30.6	32.1	31.5	32.9	31.6	32.0
DO(mg/L)	9.70	4.32	9.32	6.52	9.79	5.14	9.74	8.01
DO 飽和度(%)	119.4	54.1	114.2	81.7	120.8	63.1	120.0	99.9
pH(－)	8.20	7.92	8.18	8.08	8.24	7.99	8.21	8.13
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考	－		－		－		－	

観測層：上層（0m）、下層（海底面上 1m）。貧酸素状態とは DO（溶存酸素量）が 2mg/L 以下の状態。

●主な出現種など（速報なので種名は未確定です）

主な出現種など	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	アカエイ(r) マコガレイ(r) テンジクダイ(r) ハタタテヌメリ(r)	テンジクダイ(+) マアジ(r)	（出現せず）	アカエイ(r) テンジクダイ(r)
魚類以外 （目立った種）	シャコ(+) サルエビ(r) エビジャコ属(r)	シャコ(r) エビジャコ属(r)	シャコ(+) ゴカイ類(r)	ウミサボテン
上記以外	ホンビノスガイは死殻であった。	ミズクラゲが多数入網した。	二枚貝類の死殻が複数種入網した。	－

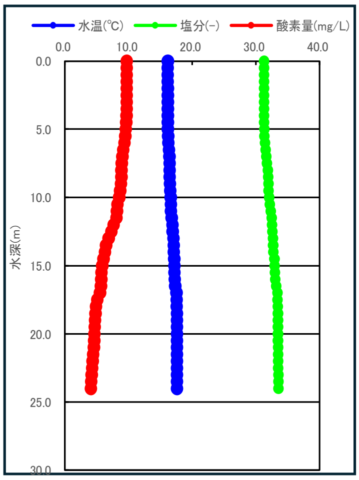
*)表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。

G：1000個体以上、m：100～1000個体未満、c：20～100個体未満、+：5～20個体未満、r：5個体未満

調査地点:St.35

調査地点位置

水質状況



地点状況

南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料

採取試料（全量）

東京湾では普通に見られるカレイの一種。成魚は全長 45 cm程まで成長する。水深 100m より浅い砂泥地に生息し、ゴカイなどを食べる。

主な出現種　※写真のスケール 1 目盛り:1mm

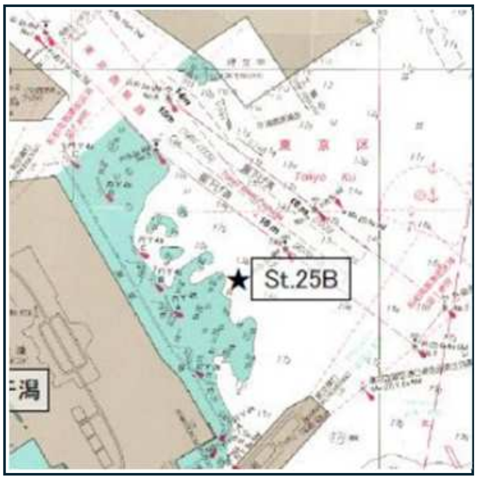
全長 13 cmほど。オスの前部背びれにある軟条（軟らかいスジ）は糸状に長く伸びる。夏は湾央のやや深い場所に生息し、秋から春にかけては湾奥にも分布するが、これには夏の貧酸素水塊発生が影響していると考えられている。

河口の汽水域や内湾の砂泥底に、大小 1 対の口を持つ U 字形の巣穴を掘って生活する。東京湾では水深 15～30m に生息し、他の水生動物を強大な捕脚を用い捕食する。

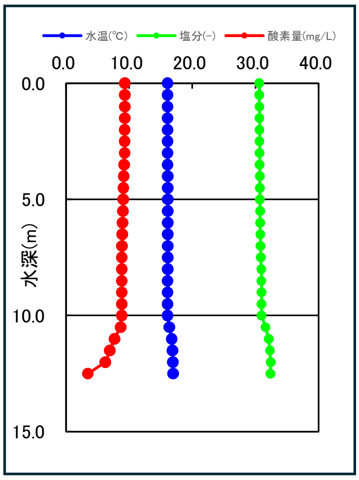
東京湾で最も普通に見られる小型のクルマエビの仲間。体表は細かい毛に覆われており、体長 10cm 前後になるが、オスの方がやや小さい。内湾の砂底から砂泥底に生息する。日中は砂に潜っており、夜間に活動する。7、8 月が産卵盛期。

調査地点:St.25

調査地点位置



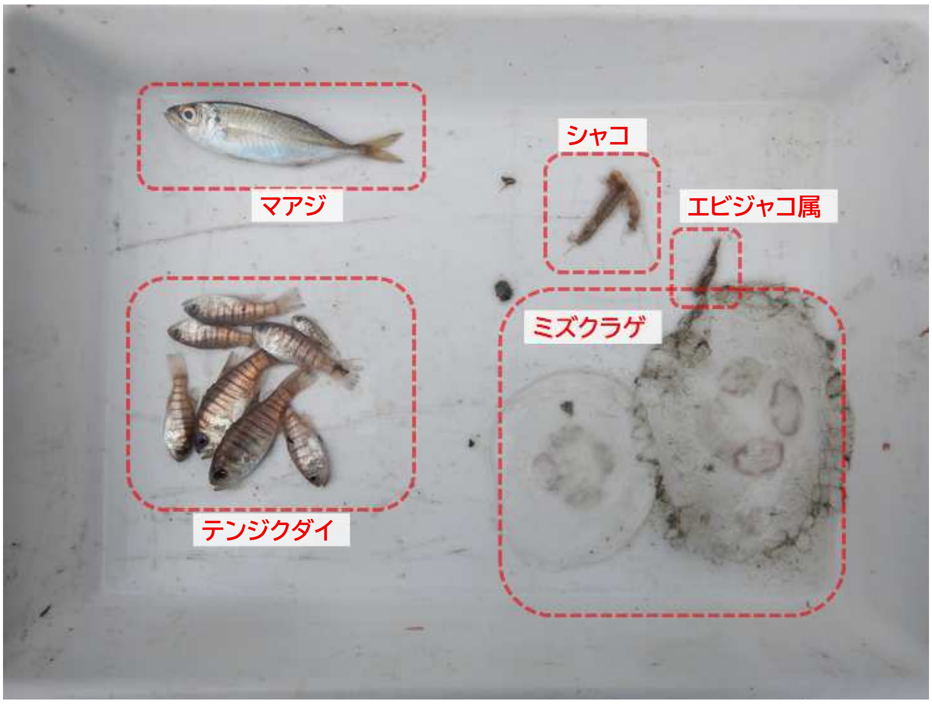
水質状況



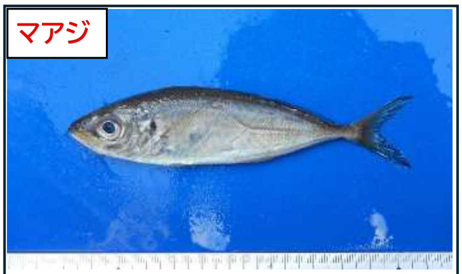
地点状況

西側には東京国際空港が見える。

採取試料



採取試料



重要な食用魚であり、底曳網やまき網等で漁獲される。東京湾では湾奥から外湾にかけての沿岸からやや沖の表層付近で普通に見られる。仔稚魚は小型の動物プランクトンを食べているが、成長するに従って魚食性が強くなる。

主な出現種　※写真のスケール１目盛り:1mm

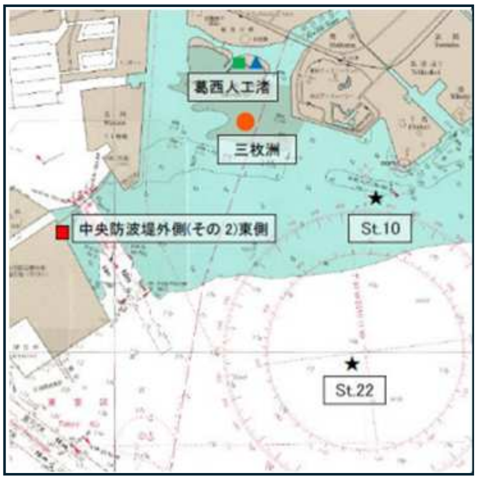
東京湾全域に出現し、特に湾奥に多い。砂泥底に生息して甲殻類等を食べる。繁殖期は７月から10月。親魚が卵を口の中にくわえて、ふ化するまで保護する習性を持つ。

河口の汽水域や内湾の砂泥底に、大小１対の口を持つＵ字形の巣穴を掘って生活する。東京湾では水深15～30mに生息し、他の水生動物を強大な捕脚を用い捕食する。

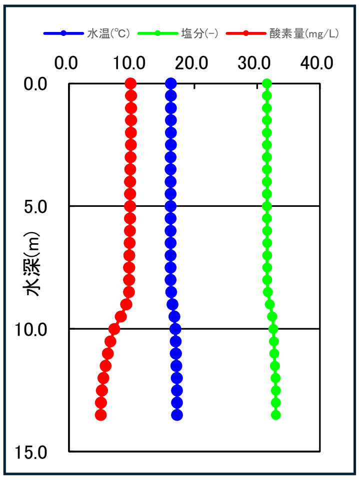
内湾の砂泥底に生息し、普段は砂にごく浅く潜って隠れている小型甲殻類。環境の変化に敏感に反応して体色を変化させる。稚魚等を捕食することもある。

調査地点:St.22

調査地点位置



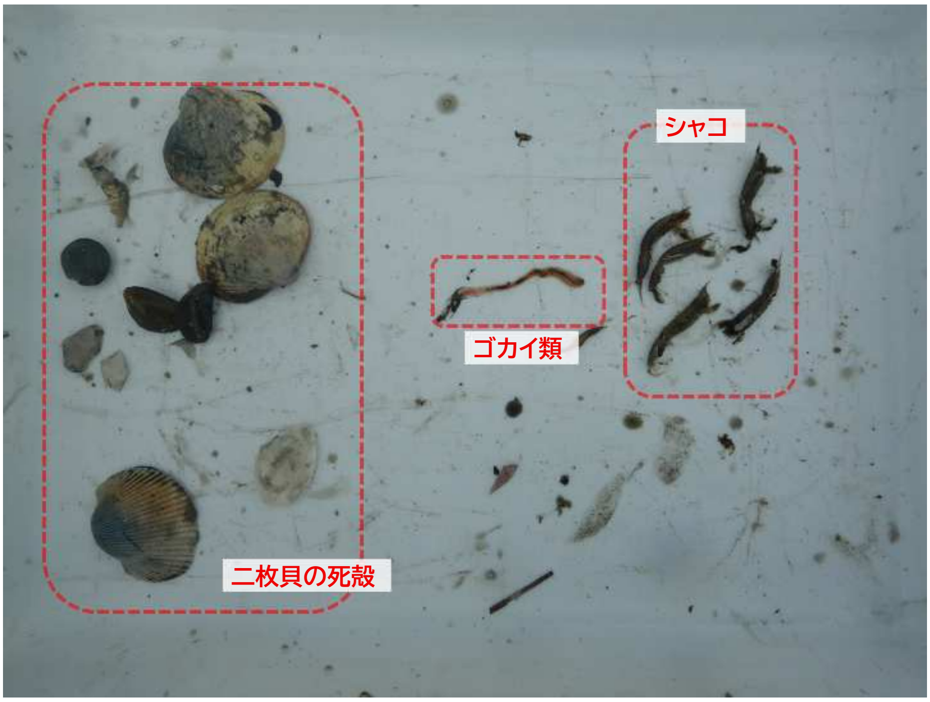
水質状況



地点状況

北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料



採取試料（全量）

シャコ

河口の汽水域や内湾の砂泥底に、大小 1 対の口を持つ U 字形の巣穴を掘って生活する。東京湾では水深 15～30m に生息し、他の水生動物を強大な捕脚を用い捕食する。

主な出現種　※写真のスケール 1 目盛り:1mm

ホンビノスガイ(死殻)

北米原産の外来種で、殻長 10cm を超える大型種。殻は本来白色だが、貧酸素環境で生育したものは硫化物の影響で黒ずむ。

ミドリイガイ(死殻)

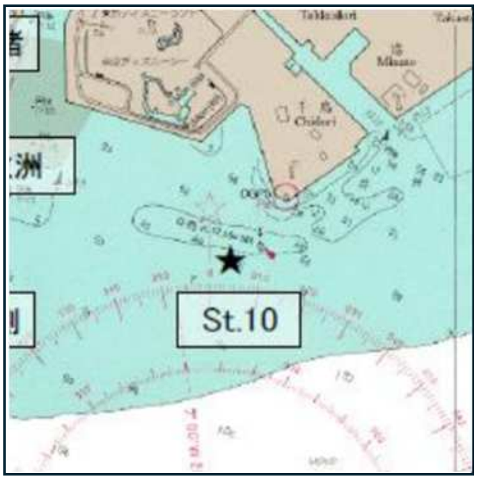
インド洋から西太平洋の熱帯水域が原産。殻長 6cm ほどで、殻の形はムラサキイガイとよく似ているが、殻の色が鮮やかな緑色である。水温が 8℃以下になると死んでしまうが、水温が高い海域では越冬することができる。

多毛類

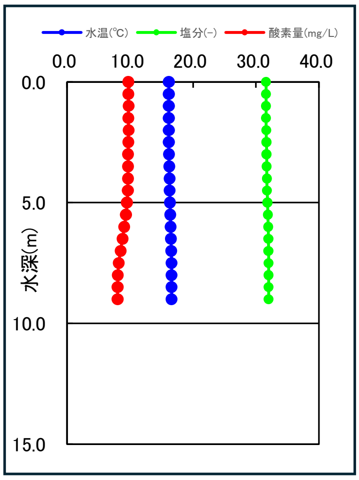
国内から 800 種類以上が知られ、生活様式も食性も多様な生物。また、多毛類はたくさんの生物の餌となっている。肉眼での識別が難しいため、多毛類とした。

調査地点：St.10

調査地点位置



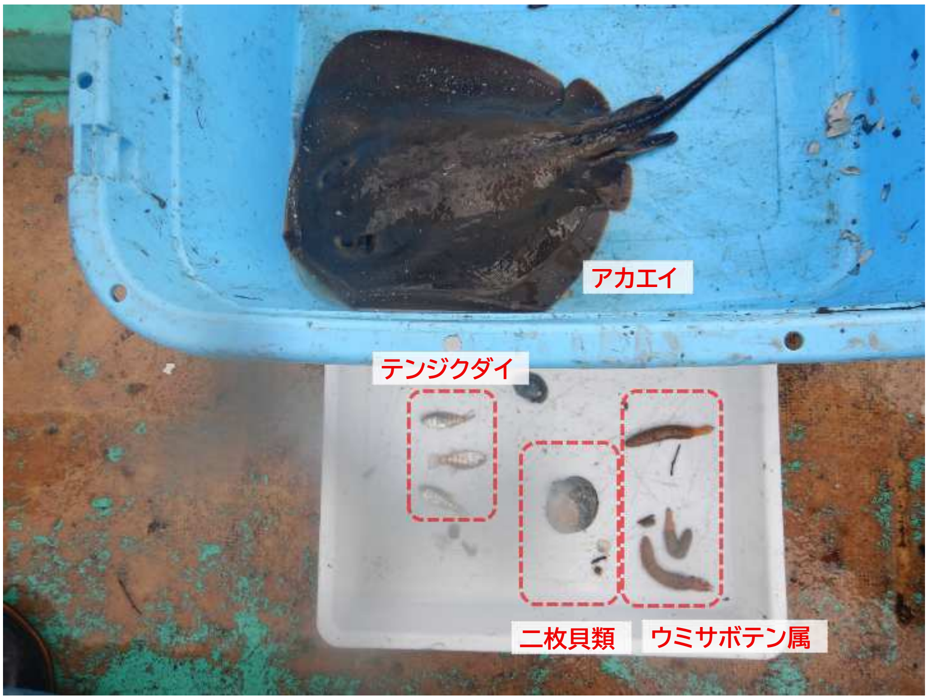
水質状況



地点状況

北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料



採取試料（全量）

東京湾で最も普通にみられるエイ。目の後ろにある噴水孔で呼吸をする。尾部のノコギリ状の棘（毒針）は刺されると危険。

主な出現種　※写真のスケール１目盛り：1mm

東京湾全域に出現し、特に湾奥に多い。砂泥底に生息して甲殻類等を食べる。繁殖期は７月から 10 月。親魚が卵を口の中にくわえて、ふ化するまで保護する習性を持つ。

水深 20m 程度までの砂地の浅海に生息する。これ自体が一匹の生物ではなく、個虫による群体。日中は砂の中に潜んでいるが、夜になると水中に体と触手を伸ばす。

有機汚濁の指標種のとされている。貝殻は半透明で薄く割れやすい。成貝は殻長約 2cm である。